

網膜色素変性症に対する遠赤外線治療

第60回日本臨床眼科学会(2006年10月5日)発表内容から

医療法人社団秀明会 遠谷眼科 遠谷 茂

網膜色素変性症の治療については、現在も数々の研究が精力的になされていますが、治療方法は確立されていません。網膜色素変性症の視機能改善に遠赤外線治療が有効かどうかを、当院の患者さん16名のご協力を得て調査しました。以下にその結果について述べることにします。

1. 治療の方法

波長4~25ミクロンの遠赤外線を放出する板状の特殊素材(厚さ約1cm、面積約85cm²)を60分間または2週間身体に接触させ、遠赤外線接触前後における視力の計測を行いました。

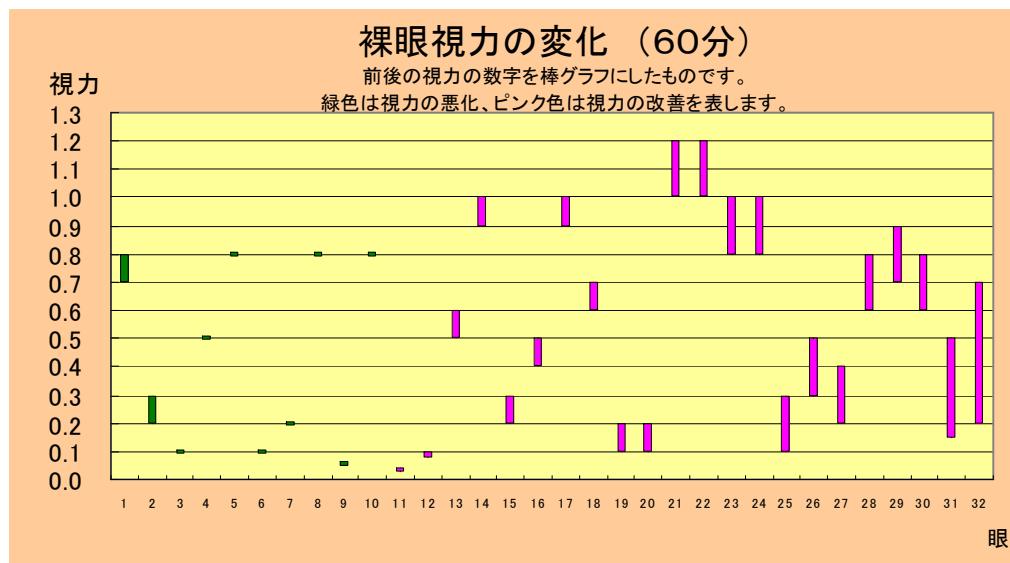
2. 結果

2-1. 60分間治療における視力の変化

対象:網膜色素変性症16例32眼(男性5例、女性11例、平均年齢65.5歳)

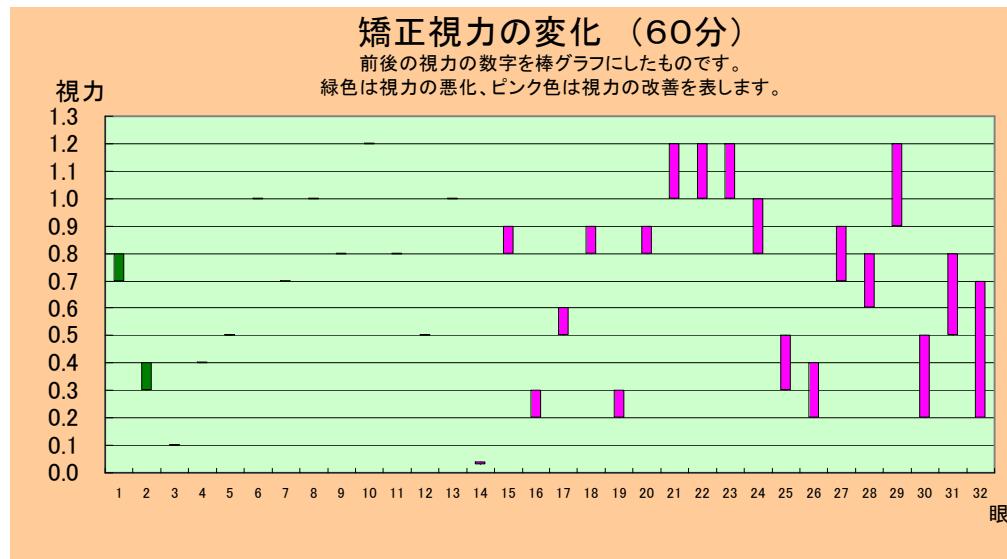
①裸眼視力の変化(16例32眼、2006年5月実施)

- 改善 22眼 (69%)
- 不变 8眼 (25%)
- 悪化 2眼 (6%)
- 変化の平均値 +0.11
- 変化の幅 -0.1~+0.5



②矯正視力の変化(16例32眼、2006年5月実施)

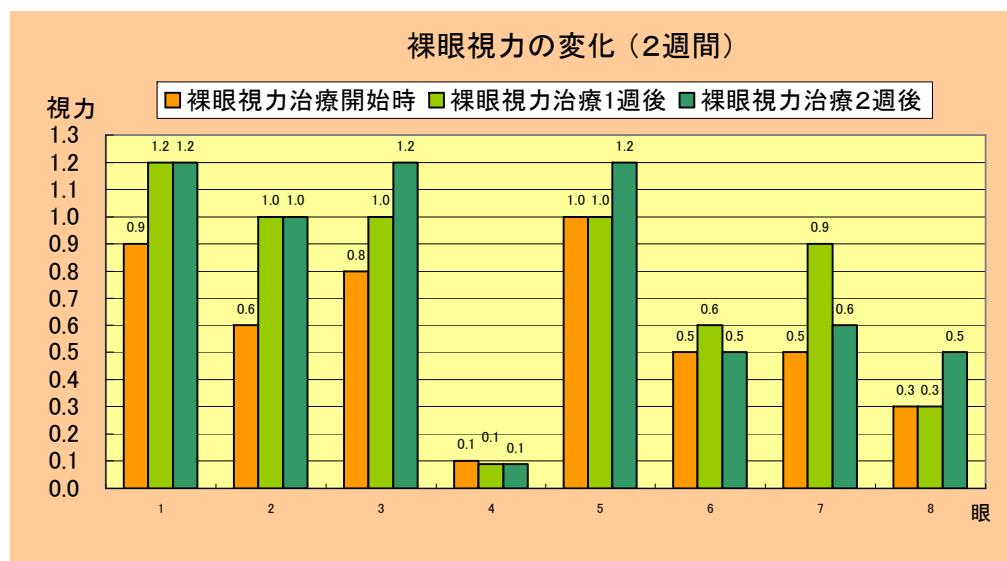
- 改善 19眼 (59%)
- 不变 11眼 (34%)
- 悪化 2眼 (6%)
- 変化の平均値 +0.11
- 変化の幅 -0.1~+0.5



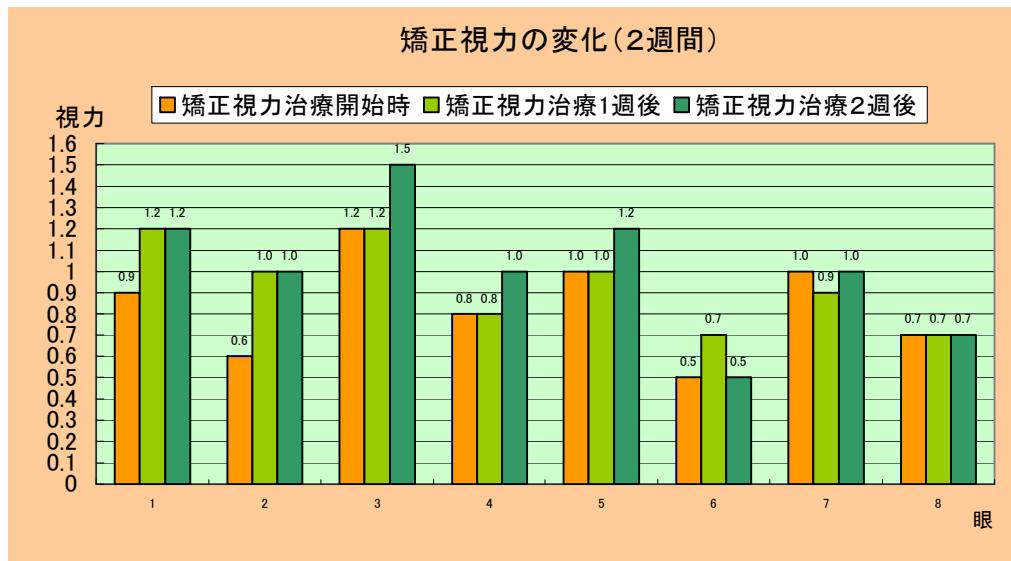
2-2. 2週間治療における視力の変化

対象: 60分間治療の調査にご協力いただいた方のうち、2週間の調査が可能な方4例8眼。
(男性1例、女性3例、平均年齢68.0歳)

① 裸眼視力の変化(4例8眼、2006年9月実施)



② 矯正視力の変化(4例8眼、2006年9月実施)



3. 考察

遠赤外線の照射を受けることにより、網膜脈絡膜の微小血管の血流が改善され、視機能が向上したものと推察します。遠赤外線治療は視力の質の向上と病気の進行抑制に対して有効な治療となりうるを考えます。